

オウム対策住民協議会ニュース

オウム真理教対策関係 市区町連絡会総会開催

平成28年度オウム真理教対策市区町連絡会総会が6月1

日午後2時より全国町村議員会館に於いて開催された。25団体の会員のうち、23団体と住民協議会13団体の参加の中、足立区長近藤やよい会長が議長となり、27年度の活動報告、歳入・歳出、決算報告と監査報告がなされた。28年度は近藤会長の再任という事で総会は終了した。その後公安調査庁からは、オウム真理教信者による勧誘活動の実態が報告された。その中で現在も出家・在家合わせて、1650人の信者が15都道府県32ヶ所の拠点在住していること。今だに麻原への絶対帰依が行われていること。教団名を秘匿した勧誘活動を組織的に展開しており、北海道などでは若い信者が増えていると話された。また、情報交換、意見交換の中で、世田谷区と同じようにひかりの輪が居住する、長野県小諸市、東大阪市、愛知県豊明市、福岡県稲津市の活動状況も知る事が出来、短時間の中であるが交流することが出来た。最後に近藤会長より、オウム真理教関連



烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

施設が存在する、連絡会未加入団体(11自治体)へ呼びかけて、全国連携を取りながら、活動を続けていきたいと今後の活動への協力を確認して散会となった。(今回未加入の水戸市、鎌ケ谷市がオブザーバーで参加した)

募金にご協力 4月～6月 ありがとうございます。

•リサイクルバザー	16,830円	•学習会・抗議デモ	14,580円
•からすやま下町まつり	3,215円		

オウム真理教と闘うエネルギーとなる 募金活動にご協力ください

これまで地域の方々が始め、世田谷区や町会・自治会、商店会などたくさんの方々に支えられ、活動を16年間継続してまいりました。その活動の甲斐もあり、6年前には麻原を信奉するアレフ信者約40人が移転しました。現在は上祐派ひかりの輪信者数名が居住を続けているのが現状です。振り返れば、長年続けてきた烏山地域オウム真理教対策住民協議会の活動は住民の皆さんに支えられ、成長してまいりました。日常的にオウム真理教の監視活動を行い、反対の意思を示す抗議デモ・学習会、住民協議会ニュースの発行、募金活動などその活動は多岐にわたります。この活動があるからこそ、オウム真理教としても住みづらい環境となったのでしよう。昨年などは、住民協議会会員が行っていた監視活動に対し、オウム真理教(ひかりの輪)代表である上祐本人から苦言が浴びせられるとの行為がありました。したが、これなども監視活動への嫌悪感から咄嗟に感情的な言葉となつて出たのでしよう。住民協議会の最終目標は、オウム真理教の「解散・解体」でありませんが、今は、オウム真理教信者の住みにくい状況をいかに作るかが、とても大切な活動となっています。施設の周辺は勿論、地域の隅々までオウム真理教反対の声や活動が見えるようにしたい、そんな気持ちで取り組んでいます。7月に入り夏祭り



や各種イベントが各地域で開催されますが、住民協議会はこの時こそ重要なシーズンです。これから何年続くかわからないオウム真理教との闘いにそなえ、活動を継続出来る資金を皆さまにお願いしなければなりません。厳しい夏に向かいますが、必ずお祭りやイベントへ出向き募金のお願いに伺いますので、会員の姿や募金箱を見かけた時は、ご協力をお願いいたします。

からすやま下町まつりで募金活動

去る6月4日に世田谷文学館とその一帯で行われた「からすやま下町まつり」で、下町さんのご理解をいただき、今年ものぼりと募金箱を置いて、タスキを胸に募金活動を行いました。芦花公園駅前の盆おどりと同様、目立つ活動は控えての募金活動でした。文学館の中では、恒例となった講演会もあり、近隣の小学生のポスターも展示され、たくさんの方が

ゆったりと鑑賞したり、談笑しながら休憩していました。主催者の了解を得られるなら、ここに募金箱を置いた活動も一考の価値があるのでは。文学館内は人の流れもゆったりで、ここに抗議デモ・学習会の時の写真パネルを一枚でも掲げることが出来ればもっとPR効果を上げられるのでは、そんなことを思いながらの募金活動でした。

松本サリンって？ 池亀弘子

寄稿

先日、電車の中で驚くべき会話を聞いた。学校帰りの女子高生で、今どきの、つまりやや校則に反した三人組だった。その中の一人が不思議そうに言った。「松本サリン事件って、地下鉄サリン事件と違うの?」「え、一緒の事だよ。麻原って本名が松本って言うから、そう呼ぶ人がいるんだよ」車内は空いていたが、車輛の端と端に座る彼女らとは距離が遠く、話しが出来ず私は^{ぐに}忸怩たる思いでいた。

そして思い出した。松本サリンの一報が入った夜のニュースの時、夫は呆れながら言ったのだ。犯人はこのK氏ではない。個人のバケツでサリンは偶発的に出来るものではない。大きな組織がそれなりのプラントで意図して作ったものだ、と。私は平和ボケしていたので、報道を鵜呑みにしていた。そして反論した。だって大学の

先生が皆言っているんだよ。第一、貴方は電気学科でしょ、化学専攻ではないでしょう? 一体どんな組織がそんな事を、それを松本でやるの? 答えて夫は言う。犯人は大組織だよ。化学専攻でなくとも、理系ならその程度の事は解る筈だ、と。

そして長い長い時を経て、汚名を着せられたK氏は加害者ではなく、更には奥様も重度の被害者だとマスコミも謝罪した。私は自分が「大本営発表」には騙されない人種だと思っていた。しかし警察の発表を疑いもせず流すマスコミ、しかも、日毎に加熱する報道を信じてしまう愚かさを恥じた。そして報道の規制が噂される昨今、翻弄されないよう強く念じている。更には、若い人達に真実をきちんと伝えていく必要性を強く感じている。

オウム真理教(ひかりの輪)の謎に迫る④

前回に引き続きひかりの輪の総括、特に上祐史浩個人の「総括文」に迫ってみた。そもそもこの「総括文」が何を目的に書かれたのか。いつ頃書かれたのかは今でも納得がいかないが、この点については後述する。

さてオウム真理教は、1990年の総選挙に出馬したが、全員落選となり惨敗する。これが契機となりヴァジラヤーナ活動を本格化することとなるが、それ以前にも教団は「殺すことで、その人間の魂をより高い世界に生まれ変わらせる」との殺人を肯定する教えにより、真島・田口両信者を殺害。さらに信者の親から、オウム真理教に入信した子ども達の救出の依頼を受け活動していた、坂本弁護士一家の殺害も実行した。その後松本サリン事件・地下鉄サリン事件へとエスカレートし、日本犯罪史上最も凶悪な連続テロ事件として、元教祖麻原彰晃死刑囚はじめ、13人の元幹部信者の死刑が決定するに至った。だが犯罪集団と化した教団のなかで、摩訶不思議なことに、ただ一人殺人に手を染めていない人物がいた。それが上祐史浩で、罪状と言え偽証罪で3年間の拘留後出所している。この事実^に反論するつもりはないが、「総括文」では、事件の実行計画には参加していなかったとか、知らされていなかったとの記述が

余りにも多く、反省をしているように見せかけ、実態は自己の正当性を主張するものとなっている。さらにある思想についての記述では、余りにも無知な知識を披露し、嘲笑にも値しない文章の羅列には読むのも恥ずかしい。

それではその「総括文」のほんの一部を見てみよう。坂本弁護士殺害事件の事実を記した後で「この事件に関しては、裁判の判決が明らかのように、私は、事件発生前には、坂本弁護士を殺害する謀議に参加したことも、そういった考えを聞いたこともない」と言って、自らを安全地帯に囲い込み、事件の分析をとうとうと述べている。ところが上祐は犯行前に、他の幹部信者と共に坂本弁護士が所属する事務所に出向き、一触即発の論争となり、物別れに終わるといふ事態の当事者であった。そしてその直後に事件が起きた。上祐自身が事件に発展する事態を演じておきながら、自らは手を下していない事を良い事に無責任な物言いではないか。さらに事件が起きて何年も経過した後で、教団や麻原には「以前から危険を認識していた」と、得意満面に書き、事件については冷静に分析し、自身の責任は回避し追求しない、そんな文章が羅列された「総括文」はなんともあざとい。

住民協議会活動報告

6月15日(水) 実行委員会
6月27日(月) 協議会ニュース157号初校正
7月4日(月) 協議会ニュース157号再校正

7月5日(火) 事務局会議
7月12日(火) 協議会ニュース157号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。